

京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



株式会社 京都建築事務所
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083

京都市中京区三条通柳馬場東入
中之町10番地

TEL:075-211-7277

FAX:075-211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。



元廣 惇・藤井寛幸／著

A5判304頁 定価3300円(税込)

「職業病」という社会課題に挑戦し
働く人とともに紡いだ「共創の物語」

多くの方と事業を共創し、地方であることを強
みとした作業療法の観点で「ともに幸せな未来
を描く」ビジョンで、健康経営の文化を創る！

CANVAS
働く人と
「ともに創る」
作業療法



塩谷索・吉田かける・

藤原朝洋／編著

A5判202頁 定価2420円(税込)

常勤心理士が保育士と連携し

保育の質の向上をめざす画期的な取り組み！

保育士が心理士の考え方を学んで現場対応
能力が向上。心理士は保育園に新たな機能を
加えるのではなく、今ある機能を強化する！

保育園に
心理士が
やってきた
多職種連携が
保育の質をあげる

多職種連携が
保育の質をあげる



クリエイツかもがわ
CREATES KAMOGAWA

〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町21 <https://www.creates-k.co.jp>
TEL 075(661)5741 FAX 075(693)6605 送料330円(5000円以上無料)



「文化的な生活」がもつ大きな力

一見、どこの地域にもあるごく普通の民家。ここは、大阪府羽曳野市にある空き家^{はびきの}を改装して、介護を必要としない65歳以上の高齢者に、日中を楽しく過ごせる居場所を提供する「街かどデイハウス コスモス」です。家庭的な雰囲気なかで、認知症予防や筋力トレーニング、趣味・創作活動、レクリエーション活動など、介護予防につながるサービスをおこなっています。今年で22年目を迎えました。



利用者は、80代後半～90代前半の方が多いですが、みなさんとにかくお元気！ 1階の広いリビングでさまざまな行事や催しをおこない、とくにピアノの伴奏でなつかしい日本の歌、世界の歌をうたうことが、みなさんにとって大好きな時間です。ふと昔を思い出して、涙が出そうになることもあるそうです。



2階にはそれぞれ3つの部屋があり、習字をしたり、読書会を開いたり、囲碁や「健康麻雀」（“賭けない・飲まない・吸わない”麻雀）なども楽しむことができます。

90歳のある女性は、「家にこもっているより、ここに来るのが楽しい。みんながやさしいから、雰囲気がいい。いろんなことを勉強させてもらえます。こんな年になっても、筆をもってこれだけの字を書ける、みんなについていけるというのは、私の楽しみです。生きがいを感じています」と語ります。

久宝寺緑地

バス見学

H29・5・10



2016.05.10



2016.05.25



2016.05.24



人生は七十才より

七十才にてお迎えあるときは
今留守と言え

八十才にてお迎えあるときは
まだまだ早いと言え

九十才にてお迎えあるときは
そろ急がずともよいと言え

百才にてお迎えあるときは
時機を見てこちらから
ボツボツ行くと見え

街かどデイハウス事業は、大阪府が1998年に事業化し、2007年度には大阪府下で128か所まで増えていました。しかし、2008年からの元橋下府政のなかで、財政再建を理由に補助金が削られ、多くの街かどデイハウスが運営できなくなってしまいました。現在、補助金を受けて運営しているデイハウスは、大阪府下では26か所、羽曳野市では2か所のみです。法人理事長の杉山弥生^{やよい}さんは、「軍事費やカジノにお金を使うのではなく、こういった身近に高齢者が元気で集い憩う場を増やすことを、もっと行政が後押しすべき」と話されました。(写真・文 黄驥)

●特集● ひろがる生活と健康の破壊
——「国民皆保険」を問う——

無料低額診療事業が対象とする人たち	目良彩子・阪本利枝	10
国保料・税で追いつめられる自営業者の生活	金澤 利行	14
社会保険への理解と改善に向けて	長友 薫輝	18
「保健所」の今とこれから		
——地域との連携、ネットワークづくり	白井 千香	24

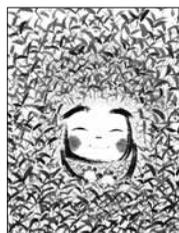
●トピックス●

住まいの貧困を考える		
～Ⅱ 刑務所からの出所者と住まいの支援～	藤原 望	30
戦時と平時の連続性から問う性暴力と女性の人権	芝田 英昭	34
年賀広告		40

●連載●

世界と交流する平和の船に乗ってみた！	根津真澄+オット	48
第4回 クリーンな天然エネルギー先進国・アイスランド		
WORK WORK——わくワク——		
みんなでつくるココナッツチュイール	しょうぶエバンズ	52
婦人保護運動のこれまでとこれから (10)		
若年女性支援と新法②	仁藤 夢乃	54
ケア労働処遇改善キャンペーン！⑱	鴨井 健二	58
障害者福祉施設の存続の危機——職員不足の実態調査より——		
JOB&ACTION 全国福祉保育労働組合 (34)		
経済対策に盛り込まれた6000円賃上げに対する見解		60
私の履歴書 社会福祉経営全国会議 (34)		
未来は労働者と婦人のもの	乾 みや子	62
阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎 (54)	水野阿修羅	64
相談室の窓から		
子どもの最善の利益を最優先に②	青木 道忠	66
育つ風景		
給食の先生と担任の先生をつないだカタツムリ	清水 玲子	68
映画案内 『ハッピーアワー』	吉村 英夫	70
現代の貧困を訪ねて	生田 武志	72
道又蒼彩の「カフカの階段」版画連作 (2)		
似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート		
スバルしい歌を残されたのじゃ！	ラッキー植松	74
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜	76
花咲け！ 男やもめ	川口モトコ	77

●表紙の絵●
神門やす子



聞こえのバリアフリー

全国に広がる加齢性難聴者の 補聴器助成制度

全日本年金者組合大阪府本部執行委員、社会福祉士 林 洋司

私が補聴器に関心をもったのは、九五歳の母が五年前に補聴器を購入したことからです。三〇万円の高額におどろきつつも、聞こえが改善するならと期待していました。しかし、結局本人が使いこなせず、家に行くとテレビの音量は爆音。なぜだろうか、が原点です。

年金者組合の組合員からも「補聴器は、メガネ、入れ歯などにくらべてあまりにも高額。メガネ感覚で補聴器がほしい」「加齢性難聴は本人が気づきにくい。健診項目に入れ、はやく本人が自覚できるようにしてほしい」といった切実な声が聞こえてきます。

三年前から、堺市北区の年金者組合支部長として堺市議会に補聴器助成の請願をスタートしました。当初は全国での助成自治体数などのデータもなかったもので、二〇二二年九月に「補聴器助成運動資料集」を作成し、大阪府内六三支部に配布しました。資料集のとりくみが『しんぶん赤旗』で報道されると、四四都道府県一九七団体・個人から送付依頼が殺到し、あらためて関心の高さを実感しました。

さらに調べてみると、欧米では医療の問題として助成制度がおこなわれており、医療機器である補聴器を販売するには国家資格が必要で、医師と連携し、患者が補聴器を使いこなせるまで支援するしくみが確立しています。補聴器の満足度も八〇%に対し、日本では三九%です。ドイツでは、バリアフリーの法律で公共の場所にはヒアリングループ（マイクを通した音声を直接補聴器や人工内耳へ伝えることができるもの）の設置が義務づけられています。そういったしくみが、補聴器の普及をあと押ししていることがわかりました。私は、母のような事例の多くは、生活実態を無視し、自助・共助に重きを置く日本の社会保障制度の問題そのものだと考えています。それを少しでも改善できるよう、推進運動にとりくんでいます。



はやし ようじ

1954年北海道小樽市生まれ。札幌と愛知で育ち、日本福祉大学を卒業。就職（大阪府社会福祉協議会）のため大阪へと南下の人生。定年退職後は、地元堺市で年金者組合活動や地域活動に走り回る。2年前から年金者組合大阪府本部でまちづくり推進部と社会保障部を担当。

地方自治法では「地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本」と規定はされていますが、大阪維新の会は「身を切る改革」と称し、大阪府議会では議員定数を約三割（三〇人）削減しました。当選者が一人だけの「一人区」は約七〇％を占め、全国平均の倍近くになっています。一人区が多いということは、落選した候補者に投じられた「死票」が増え、多様な民意の反映に逆行する政治が加速するということです。

年金者組合大阪府本部が九月二五日に大阪府議会へ補聴器助成の請願をしたときは、健康福祉常任委員会での審議もされず、委員全員（維新七人、公明二人、自民一人）が反対で不採択でした。かたや、東京都では特別区二三区中二〇区で助成制度が実現しています（二〇二三年一月現在）。その背景には、日本共産党都議団が助成制度を議会で提案するなかで、現在ある補助制度（高齢社会対策区市町村包括補助、事業の二分の一補助）を活用できるとの答弁を引き出したことが引き金になりました。東京の一人区は一四％で、まちづくりの住民運動と議員団との連携プレーが制度を実現させています。

社会の活性化には、高齢者の社会参加がこれまで以上に求められています。高齢になっても、生活の質を落とさずに心身とも健やかに過ごすため、聞こえの支援は重要な課題です。先輩たちが保険適用を勝ち取った白内障（眼内レンズの挿入手術）につづくと運動を推進していきます。声を上げることで、全国の補聴器助成事業をおこなっている自治体は三七都道府県二二三自治体（二〇二三年一月現在）に広がっています。

年金者組合は何歳からでも入れます。現在一〇万人を超える仲間が全国でいきいきと活動しています。「長生きして良かった」が年金者組合のねがいです。多くの方が、お住いの地域の年金者組合に加わってくださることを期待します。

ひろがる生活と健康の破壊

「国民皆保険」を問う

みなさんは、自身の健康保険料や厚生年金保険料、雇用保険料、介護保険料などのいわゆる社会保険料を、毎月どれくらい支払っているか、ご存知でしょうか。いわゆるサラリーマンと言われる雇用労働者の場合、こうした保険料は毎月の給料から天引きされています。ほかにも共済費や組合費など、さまざまなものが天引きされて実際に手元に残るいわゆる「手取り」にどうしても目がいつてしまうので、自分が負担している社会保険料の金額をしっかりと把握しておられる方は、多くはないのではないでしょうか。

私たちは、この社会保険料を支払っているから、病院を受診する際には窓口負担が三割となり、失業期間には失業手当が支払われ、老後や障害で働けなくなった場合は年金を受け取ることができます。社会保険とは、国や自治体、雇用主や被雇用者がそれぞれ保険料を拠出することで、安心して医療を受けたり、病気やケガ、失業によって生活が脅かされる事故に対して国民の生活を守るためのしくみで、社会保障の一つです。日本では、大きくわけて、社会福祉、社会保険、公的扶助（生活保護）、保健医療・公衆衛生の四つを合わせて社会保障だと言われています。

稼ぎが多く、若くて健康な人は、社会保険料は取られるだけでなにも恩恵にあずかれない、年に数回の受診なら保険料を払わずに窓口で一〇割負担額を支払ったほうが安い、と感じることがあるかもしれません。ですが、自分の賃金だけで自分や家族の治療費や老後費用をまかなうというのは不可能です。賃金を

上げる運動ももちろん大切ですが、たとえば医療費の窓口負担ゼロを求めるなど、社会保障を充実させることで生活の質を上げていくことを求める運動も、とても大切です。賃金と社会保障は、生活を支える車の両輪なのです。

さて、日本は「国民皆保険」だと言われています。すべての国民がなにかしらの公的医療保険に加入することになっており、すべての国民が、病気や事故にあったときの医療費の負担が軽減されることになっている、というものです。加入する保険組合は、「雇用先や職種、年齢によって分けられています。そして、自営業者や非正規労働者、七五歳未満の無業者など、ほかの公的医療保険の対象とならないすべての人が加入することになっているのが、「国民健康保険」です。

しかし現実には、退職後に国民健康保険への変更ができず無保険状態になっていたり、保険料を滞納していて有効な保険証をもっていなかったり、保険証をもついても窓口負担額が支払えず、結果的に医療にかかれない人がいます。公的医療保険は、賃金との両輪で国民の健康と生活を守る社会保障のひとつの大きな柱ですが、その対象になれない、もしくはその対象になるための保険料が生活を圧迫するほどの大きな負担になっていることで、生活と健康の破壊が広がっている現実があります。

今号では、ひろがる生活と健康の破壊の実態を見つめるとともに、その背景に大きく横たわる「国民健康保険」の問題についても触れたいと思います。また、社会保障のひとつである「保健医療・公衆衛生」を守る役割を主に担う保健所について、変遷と課題、可能性についても考えます。人々の生活と健康を守ることを考えたとき、四つの社会保障がそれぞれどのような役割を果たすべきなのか、その狭間に落ちてしまう人々が多数いる現実に目を向けながら、考えてみたいと思います。

（編集主任 申）